令和４年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）
成果報告書

団体名		川崎市文化財団グループ
施設名		川崎市アートセンター
助成対象活動名		公演事業・普及啓発事業
内定額(総額)		8,962 （千円）
	公演事業	8,014 （千円）
	人材養成事業	0 （千円）
	普及啓発事業	948 （千円）

（１）令和４年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	しんゆりシアター「人間ぎらい -メランコリックな恋人- 喜劇５幕」※	令和４年10月８日～16日	＜出演＞采澤靖起、那須凜、齊藤尊史、真那胡敬二ほか＜スタッフ＞作：モリエール、翻訳：北則昭、演出：五戸真理枝、美術：香坂奈奈ほか	目標値	1,142
		川崎市アートセンターアルテリオ小劇場		実績値	714
2	京楽座「『不忠臣蔵』より酒寄作右衛門」※	令和４年４月30日、５月１日	＜出演＞中西和久＜スタッフ＞作：井上ひさし、演出：ふじたあさやほか	目標値	286
		川崎市アートセンターアルテリオ小劇場		実績値	204
3	ファミリーシアターto R mansion「へんてこうじょう」※	令和４年５月８日	＜出演＞to R mansion、江戸川じゅん兵、イーガル＜スタッフ＞音楽・演奏：イーガル、演出：上ノ空はなび、共同演出：小島康嗣ほか	目標値	302
		川崎市アートセンターアルテリオ小劇場		実績値	298
4	「ベイビーミニシアターフェスティバル～『あるく』『響鳴』『アル』～」※	令和４年５月３日、４日	＜出演＞「あるく」原田正俊、「響鳴」山崎倫子・大浴ちひろ、「アル」中市真帆 ＜スタッフ＞演出：ジャッキー・E・チャンほか	目標値	112
		川崎市アートセンターアルテリオ小劇場		実績値	64
5	親子で楽しむ夏時間 2022「四角い世界」※		中止	目標値	313
				実績値	
6	しんゆり寄席※	令和４年６月～令和５年３月	＜出演＞世話人：桂米多朗、初音家左橋、ゲスト真打：柳家三三、昔昔亭桃太郎、柳家喬太郎、柳亭小痴楽、桃月庵白酒	目標値	696
		川崎市アートセンターアルテリオ小劇場		実績値	694
7	しんゆりジャズスクエア※	令和４年６月～令和５年３月	＜演目＞　「アートセンター開館15周年記念企画　ジャズの醍醐味　野口久和ビッグバンドが５年ぶりに登場！」「二人の歌姫と巡る　世界のジャズ名曲の旅」ほか	目標値	621
		川崎市アートセンターアルテリオ小劇場		実績値	649

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

（３）令和４年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	夏休みワークショップフェスティバル※	令和４年７月23日～８月７日	①　「ことばであそぼう！ことばはオモチャ！」講師:ふじたあさやほか ②　「ミュージカル体験　舞台でつながれ♪」講師：河田園子ほか	目標値	90名
		川崎市アートセンターアルテリオ小劇場		実績値	参加者54名/発表会入場者103名
2	しんゆりアウトリーチ※	令和４年４月、６月	①　新入生コミュニケーションワークショップ in 桐光学園 ②　新演劇部で創る！合同ワークショップ	目標値	100名
		桐光学園体育館		実績値	188名
3	小劇場×映像館コラボレーション企画 vol.5「CINE-Piano kawasaki Yanashita Mie Trio」※	令和５年２月４日	＜上映作品＞「サーカス日和」「キートンのハイ・サイン」ほか＜出演＞柳下美恵（ピアノ）、菊池奏絵（フルート）、小池吾郎（ヴァイオリン）	目標値	143名
		川崎市アートセンターアルテリオ小劇場		実績値	166名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

２．自己評価

（１）妥当性

自己評価
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
【自己評価】概ね達成できた。 ◇社会的役割（ミッション） 「“文化芸術によるまちづくりの拠点”であり続けること」 「文化芸術を通して新しい人々、価値観との出会いの場として、地域住民へより心豊かな人生を提案する」 ◇地域の特性など 当館の所在地である川崎市麻生区は川崎市内で最北端の地域であり、全 7 区中人口は 6 位。老年人口は 1 位、年少人口は 4 位となっています。昭和 57 年の麻生区誕生当初より地域住民の強い後押しもあり「文化芸術によるまちづくり」を進めてきました。その機運のなか、地域の文化芸術の創造発信拠点となるべく当館が平成 19 年に誕生しました。 　コロナ禍が続くなか、開催時期のガイドラインを遵守し、公演事業では公立文化施設の状況だけでなく、演劇界の現場の対応を、また普及啓発事業では地域の小学校等教育機関でのコロナ対応をリサーチし、「安心して訪れることができる劇場」での「継続的な文化芸術との出会いの機会の創出」を軸に運営をしました。その結果、10 事業のうち 9 事業を実施できました。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
【自己評価】継続して認められる。 ■文化的意義 公演事業 6，7 のように高齢者が気楽に鑑賞しやすい事業、児童青少年が家族で楽しめる事業（公演事業 3，4）、舞台芸術愛好家が楽しめる本格的な舞台芸術（公演 1，2、普及啓発 3）など、幅広い世代が多種多様な舞台芸術に出会える鑑賞機会の提供ができました。 公演事業 1（しんゆりシアター「人間ぎらい」）は、生誕 400 年となるモリエール作品を、演劇界で若手実力派として評価が高い五戸真理枝（文学座）が演出するということで NHK-BS プレミアムの収録が決定。多くの演劇ファンに鑑賞機会を提供することとなりました。なお、五戸氏は令和 5 年 2 月、第 30 回読売演劇大賞最優秀演出家賞を受賞されました。 ■社会的意義 普及啓発事業 1，2 では、コロナ禍、「人と触れ合えない、マスク越しで十分にコミュニケーションを取ることができない」などの大きな影響をうけた児童・青少年がワークショップを通して「自己表現をする」「他者の思いを想像する」ことを体験し、希薄になっている「他者とのつながり」の大切さを見つめなおす機会を提供できました。 ■経済的意義 他県からの来場者（アンケートによる）の割合は、演劇界で話題の演出家による公演事業 1，コロナ禍の公演中止を経て上演が実現した公演事業２の平均は 43.9%と大きく、劇場の周知だけでなく、観客の消費行動も発生し、劇場周辺地域の活性化につながったと考えます。（近隣地域の高齢の来場者が多い公演事業 6、7 での他県からの来場者平均は 21.5%でした。）

（２）有効性

自己評価
目標を達成したか。
【自己評価】一程度は達成できました。 　未達成については、特に公演事業ではコロナ禍が長期化するなか、高齢者を中心に集客が十分に戻らなかったこと、感染防止の観点から客席数を減少させて実施したことが要因と考えます。 　事業実施にむけ、年間通して、劇場・稽古場での感染症対策を徹底し、安心安全な環境つくりは実施していましたが、他方、広報活動が全体で不足していたと考えます。新型コロナウイルス感染症ガイドラインが撤廃され、今後は事業の魅力をいかに伝えるかに立ち返り、一旦離れてしまった観客をいかに戻ってもらえるか、さらに新規の観客獲得も視野にいれた広報計画の見直しを行うことが必要だと考えます。また、地域の関係団体との連携をより一層図ることで、地域での安心安全な劇場の活動への理解者を増やして参ります。 ■公演事業 １.目標：本格的な質の高い舞台芸術の鑑賞機会の提供を継続し、多くの観客に充実した時間を提案する。観客アンケートの入場者率：平均 85%、観客満足度：平均 95%、アンケート回収率：平均 30%を目指す。 指標：過去 3 年間の公演事業（児童・青少年向けを除く演劇公演）のアンケート実績をもとに設定 **結果：入場者数は目標に届きませんでしたが、満足度とアンケート回収率は概ね達成しました。** （入場率：平均 59.3%、観客満足度：平均 94.5%、アンケート回収率：平均 26.0%） ２.目標：多くの児童・青少年が舞台芸術に出会うことができるよう、観客アンケートで児童・青少年演劇の入場率：平均 90%、観客満足度：平均 95%、アンケート回収率：平均 30%を目指す。 指標：過去 3 年間の児童・青少年向き事業のアンケート実績のもとに設定 **結果：観客構成は公演事業 3 は家族連れ、公演事業 4 はベイビー+両親が多く、回収率が伸び悩みましたが入場者数、満足度は達成しました。** （入場率：平均 92.4%、観客満足度：平均 99.0%、アンケート回収率 17.4%　※⑤は公演中止） ★別途、③では「子どもむけアンケート」を実施、塗り絵や絵を描いたり、お手紙を自由に書き、出演者に送る試みをおこない、回収率 23.2%となりました。 ３.目標：通年事業における「劇場の顧客」定着をできるよう、年間パスポート購入者増加を目指す。 指標：通年事業（しんゆり寄席、しんゆりジャズスクエア）の実績をもとに 1 事業 10 名増加をする。 **結果：公演事業 6・7 ともに増加には至りませんでした。** （公演事業 6:目標 29 枚→実績 16 枚、公演事業 7:目標 29.5 枚→実績 25 枚） ■普及啓発事業 １.目標：ワークショップの参加者のうち、中学生以上を 10 名までに増やし、幅広い年代に体験してもらう。 指標：過去 3 年の実績をもとに中学生以上の目標人数を設定。 **結果：達成しました。**（中学生以上 11 名） ２.目標：アウトリーチ活動の充実を目指し、件数 5 件（体験型、鑑賞型）、参加者数のべ 100 名を目指す。 指標：指標しんゆりアウトリーチの過去 3 年の実績をもとに設定。 **結果：件数は達成できず、参加者数は達成しました。**（件数 2 件 3 回開催、参加者数のべ 188 名） ３.目標：アルテリオ小劇場の新規観客獲得を目指し、コラボレーション企画の「初めて小劇場に来た」観客数率を 55%に伸ばす。 指標：小劇場×映像館コラボレーション企画の過去 3 年のアンケートをもとに設定 **結果：達成できませんでした。**（「初めて来た」観客は 48.0%）

（３）効率性

自己評価
アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【自己評価】概ね達成できました。

令和 4 年度は公演事業のうち、1 事業が中止となりました。また、普及啓発事業の 3 事業はすべて実施できました。各事業の趣旨・目的などを考慮し、開催時期の各種ガイドラインやアウトリーチでは学校のコロナ対策に合わせて、変更や工夫を重ねながら実施することができました。規模は縮小傾向となりましたが、概ね予定通りの事業期間で実施できました。

◇中止をした事業

・公演事業５（親子で楽しむ夏時間 2022「四角い世界」）：海外招へい公演のため、アーティストが来日できず。

■参考　川崎市アートセンター　来場者総数　（単位：人）

	小劇場（貸館含む）	映像館	施設合計
平成 30 年度	23,331	61,157	84,468
平成 31 年度※	21,518	58,837	80,355
令和 2 年度※	4,199	30,347	34,546
令和 3 年度※	13,622	36,503	50,125
令和 4 年度※	**17,457**	**41,023**	**58,480**

※平成 31 年度以降は新型コロナウィルス感染症の影響を大きく受けています。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【自己評価】計画通りには進みませんでした。

＜収入＞公演事業の一つが中止となりましたが、予算を上回ることができました。公演事業１において、地上波収録の放送権料による収入の増加や、公演事業 3，6，7 のチケット収入の増加が予算を上回る要因となりました。一方、普及啓発事業１では新型コロナウイルス感染症対策により、参加人数を減らしたことで収入減となり、普及啓発事業２においては学校の部外者入校制限などもあり、規模を縮小して実施しました。

＜支出＞概ね予定通りとなりました。普及啓発事業は規模縮小に合わせて、講師料などの支出も抑えることができましたが、公演事業の文芸費や、舞台費等については直近での縮小は厳しい状況でした。

特に、その中で、公演事業 6 ではブラッシュアップを図りました。過去 10 年間の実績を分析し、来場者増加を目指し、回数や内容、経費の見直しを行い、成果を上げることができました。

◇予算（申請時）に対する決算比率

	収入	支出
公演事業	123.35%	97.97%
普及啓発事業	42.25%	73.35%
平均	**82.80%**	**85.66%**

◇公演事業 6 ブラッシュアップ状況

開催年度	公演回数	入場者数	入場率	収益率
令和 3 年度	10 回	648 名	36.60%	33.51%
令和 4 年度	**5 回**	**694 名**	**80.04%**	**76.86%**

（４）創造性

自己評価
地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【自己評価】概ね達成されました。

当館がある川崎市麻生区は昭和 57 年の麻生区誕生時から「芸術によるまちづくり」を地域住民の強い後押しによって進めています。その機運のなか、地域の文化芸術の拠点となるべく、平成 19 年に当館が開館しました。運営方針として、「創る」「育てる」「楽しむ」「ネットワークを図る」「効果的な運営を行う」という柱を掲げ、文化芸術の創造発信拠点として、地域の中心となりネットワークを構築していきます。

■地域の特徴やニーズを踏まえ、現在と未来に目を向ける

川崎市麻生区は市内全 7 区のなかで老年人口（65 歳以上）が最も多く、地域の「芸術によるまちづくり」の一環として芸術祭などの鑑賞機会や、ボランティア活動の機会が豊富であり、日常的に文化芸術に親しむ高齢者が多い地域です。

高齢者が気軽に来場できる通年事業（公演事業 6、7）は 10 年目をむかえ、地域に定着した企画となっています。しかし、現状に即した事業だけにとどまらず、未来の地域の姿にも目を向け、日常生活に文化芸術を持つ心豊かな住民と文化芸術の担い手を育成することを目標に、児童・青少年向きの事業は、鑑賞だけでなく、体験・参加の機会提供にも積極的に取り組んでいます。（公演事業 3，4／普及啓発事業 1，2，3）

しんゆり寄席（ゲスト：柳家喬太郎）

to R mansion「へんてこうじょう」

夏休みワークショップフェスバル「舞台でつながれ♪」

■オリジナル企画を通した新しい価値観の提案

当館では、地域住民のニーズに応えるだけでなく、「こんな舞台芸術を知ってほしい、出会ってほしい」という視点からも、主催事業を発信しています。

公演事業１（「人間ぎらい」）は、日本での上演機会の少ないモリエールの名作を新進気鋭の演出家による、新訳での上演ということで、NHK - BS プレミアムで収録・放送され質の高い作品として、多くの演劇ファンに鑑賞の機会を提供し、これにより劇場の周知にもつながりました。

普及啓発事業３（「小劇場×映像館コラボレーション企画」）では、現在では鑑賞機会の少ない無声映画の生演奏付き上映（オリジナル楽曲）と出演者によるトークという＜映画と実演芸術を楽しむ＞オリジナル企画は、劇場に映画ファンを呼び込む貴重な機会となりました。

しんゆりシアター「人間ぎらい」

小劇場×映像館コラボレーション企画

自己評価
地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。
【自己評価】概ね認められる。 ■地域とのつながり 当館では「地域の芸術文化の拠点」としての役割を果たしており、開館から 15 年をむかえました。地域住民の文化芸術との出会いの場の創出だけでなく、チケット販売システムのブラッシュアップによる地域の芸術活動のサポート、文化芸術団体の交流と情報発信の場としてフリースペースを活用する等の準備を進めており、ソフト・ハードの両面でニーズに応えて参ります。 〇ステークスホルダーとの連携 あさお文化交流カフェ：「芸術によるまちづくり」を進めるこの地域で、地域の芸術団体、教育機関、関係団体、合計 32 団体による交流会の開催会場として協力し、年数回実施しています。 アートセンター運営協議会：地域の教育関係、文化関連団体で構成されている協議会（年２回実施）であり、当館の活動に関してご意見をいただいています。 〇児童・青少年世代との出会い 主催事業を通して、児童・青少年にむけた文化芸術の出会いの機会を創出。公演事業 3, 4、普及啓発事業 3 の鑑賞機会、普及啓発事業 1、2 の参加体験機会を継続的に提供しています。 地元の小学生や中学生に対して職業体験や、インターンシップ（令和 4 年度は施設全体で 4 名）の受け入れを行っています。 〇その他 公立高校教師の研修の受け入れや当館の特定事業「アートボランティア育成事業」を通して、地域の芸術活動をサポートする取り組みを行っています。 ■コロナ禍での文化芸術の拠点として 「文化芸術の鑑賞機会や、上演機会を途絶えさせない」という姿勢は令和 4 年度も継続し、貸館事業も含めた劇場運営を心掛けました。 「どのようにすれば安全に事業を実施できるのか」の答えを求め、地域の芸術団体に対しても指針を示す旗手となるべく運営してきました。 全鑑賞事業の集客平均 70.3%、内容の満足度平均 85.0%(アンケート回収率 39.1%)となっており、質の高い芸術鑑賞機会を提供できたといえます。 劇場の主催事業を安全に継続的に実施し、満足度の高い事業として評価されることは、劇場の色付けをすることになり、貸館利用内容の変化にもつながります。劇場に適した利用方法や、実現可能な取り組みについて提案することになります。

（５）持続性

自己評価
事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
【自己評価】概ね認められる。 川崎市文化振興条例、および文化振興計画に基づいた「川崎市アートセンターの基本方針」を軸に、毎年、劇場をめぐる情勢を見つめ、劇場のミッション、ビジョンの見直し、再設定を行い、事業計画に反映しています。 ■事業運営 観客アンケートによると、公演事業の内容に関する満足度について、「大満足・満足」は平均 96.9%（回収率平均 33.7%）となっており、普及啓発事業の参加型事業では「また参加したい」が平均 93.3%（参加者全員が記入）となっています。これらのことから事業内容の充実が表れていると評価できます。コロナ禍ではありましたが、文化芸術に親しみたいという地域住民の期待に応える事業が実施できたと考えます。 令和 5 年度からは外部メンバーによる小劇場アドバイザー委員会を設置し、事業だけでなく、公立文化施設の在り方、演劇界の状況などの意見交換を定期的に行い、劇場運営のブラッシュアップに努めて参ります。 ■経営戦略 当館は指定管理者制度での運営をしており、第 2 期（平成 24 年）より管理運営を行って来ました。現在は第 4 期（令和 4～8 年度）の指定管理を受けています。開館 16 年目を迎え、指定管理者として 11 年目となり、事業を通した劇場の色付けが徐々に定着してきたと考えられます。 所在する川崎市北部は商業地域ではなく住宅地です。併せて小劇場 195 席、映像館 113 席と小規模な施設のため、事業規模が小さく広告収入などの獲得が難しい施設です。 そのなかでも、地域住民のみなさまに劇場をより身近に感じ、応援してもらうための小口寄付などで応援していただける仕組みづくりは喫緊の課題となっています。 ■幅広い来館者アンケートの分析 観客アンケート（事業の鑑賞、参加者対象）、貸館利用者アンケートなどを実施してきました。令和 4 年度からは、来場者アンケート（施設に訪れた方すべてが対象）も追加し、事業の内容だけでなく、施設全体に対するご意見の吸い上げまで幅を広げています。 いただいたアンケートで緊急性の高いものはアートセンター運営会議（週一回開催）で早急に共有し、必要な対応につなげています。当館は小規模で職員数も少数ですが、それをメリットと捉え、特にお客様サービスに関しては迅速な対応につなげるよう努めています。 ■職員人事・人材養成 施設の職員の意識改革、スキルの底上げのためにはすべてのスタッフが等しく研修機会を活用して行く必要があります。その内容は専門分野を深めるだけでなく、接遇や救命救急などの施設全体の運営も視野にいれています。また、外部研修の積極的な参加や研修後の報告書による職員内でのフィードバック、実務への迅速な落とし込みを恒常的に行うことが重要な課題と考えます。 ■ネットワークの構築 地域の芸術団体による文化交流カフェへの参加および会場提供を通じて、地域住民の現状を理解し、当館に求めるニーズを把握。その流れから令和 6 年度からの本格的始動にむけたチケット販売システムの再構築を予定。地域の芸術団体の活動をチケット販売窓口として支え、文化芸術の拠点としての新たな役割を目指します。さらにコラボレーションスペース（無料スペース）を広く活用するための仕組みづくりにも取り組んでいます。